

神奈川県水産総合研究所研究報告投稿規定

投稿資格

報文の発表は当研究所職員、県水産関係職員及び退職者とする。但し、業務委託による受託者、共同研究者は、連著の場合は発表出来る。

内 容

報文は原著論文、総説的な報文（例えば、東京湾のシャコ漁業、相模湾の急潮など）、研究情報など水産業振興、水族生態、水域環境等に関するものとする。

原稿の受付

この規定に従って記述された報文原稿は、編集委員が随時受け付ける。

校 閲

受け付けられた報文は、複数の編集委員、または、編集委員会が依頼した校閲者による校閲を速やかに受けるものとする。報文の内容に関して問題があると編集委員会が判断したときは、委員長が投稿者にその旨を通告し、投稿者と協議するものとする。

報文の受理

校閲者とその報文の掲載を可とし、これを編集委員会が承認した日付をもって、その報文の受理の日付とする。

用語と制限ページ、カラー写真の掲載等

報文の用語は日本語または英語とする。

報文の長さは原則として、図表を含めて削り上がり10ページ以内^{*}とする。それを超える時、また、カラー写真の掲載等については、編集委員会と協議する。

^{*}：日本語では原稿用紙6枚（1行25文字の場合、96行）が1印刷ページに相当する。英文では1行10語、22行の場合、約4.5枚で1印刷ページに相当する。

原稿の部数

原稿は、本文・表・図を問わず、全て2部（1部はコピーで可）を編集委員会に提出する。

原稿の用紙と書き方

原稿は和文に関しては、ワープロを用いてA4版横書き用紙に1ページあたり25文字×22行で簡潔平易に書き、英文に関してはワープロを用いてA4版横書き用紙に1ページあたり10語×22行で書く。

句点には「。」、読点には「、または、」を使用する。

報文の構成

報文の構成は原則として以下のとおりとする。

和文：表題、著者名、英文表題、英文著者名、英文解説（Abstract or Synopsis、つけなくても良い）、本文、摘要（つけなくても良い）、引用文献、英文摘要（つけなくても良い）。

英文：表題、著者名、日本語表題、日本語著者名、Abstract or Synopsis（原則としてつける）。本文、摘要（つけなくても良い）、引用文献、和文摘要。

その他：県職員は所属、県職員以外の外部投稿者は所属機関、所在地を脚注に付す。

表 題

表題は簡潔に論文の内容を表すようなものとする。特に、表題に共通表題、連続番号および副題を併記したい時

は次の例のようにする。

(例)

小田湾の藻場の魚類－6
 群集の地域性と持続性
 Fishes of Zostera Zone in Odawa Bay-6
 Locality and continuity of fish communities

著 者 名

和文で連名の時は「・」で連ねる。ローマ字書きの様式は名、性の順とし、名の頭文字にキャピタル、後ろにスモール、姓をキャピタルにし、3名以上連名の時は、「,」で連ね、最後の名は「,and」でつなく。

(例)

山田太郎・川上次郎・山川三郎
 Taro YAMADA, Jiro KAWAKAMI ,and Saburo YAMAKAWA (2人以上の時)
 Saburo YAMAKAWA (1人の時)

所 属 (本文第1ページ脚注)

投稿者の所属は、ローマ字書きの著者名の右肩に「*」をつけ、本文第1ページの脚注に入れる。所属名が複数の場合は「*」、「**」、「***」のようにする。所在地は郵便の届く程度のものとし、郵便番号をつける。

(例1) 所員などの場合

山田太郎 Taro YAMADA*
 脚注* 資源環境部 (本所職員の場合)
 相模湾試験場 (相模湾試験場職員の場合)
 内水面試験場 (内水面試験場職員の場合)

(例2) 県職員以外の外部投稿者

山田太郎 Taro YAMADA*
 脚注* 長崎大学水産学部 〒852-8131 長崎市文教町

(例3) 英文原稿の場合

山田太郎 Taro YAMADA*
 脚注* Faculty of Fish., Nagasaki University, Bunkyou machi, Nagasaki, 852-8131 (長崎大学水産学部)

ランニングタイトル (誌面上部欄外に載せる表題を簡潔に短縮した形のもの)

和文原稿では和文で20字以内、英文原稿では英文で語間空白部分も含めて50字以内とし、原稿1枚目の上部に記載する。

原稿第1枚目の書き方

原稿第1枚目は表紙とし、その上部には、表題からはじめて、和文の場合は英文著者名まで、英文の場合は日本文著者名までを書くものとする。

また、ランニングタイトル、表題および著者名に付随する脚注もここに記載する。

AbstractあるいはSynopsis

英文のAbstractあるいはSynopsisについては、原稿2枚目にこれだけを書く。

本 文

本文は、原稿の3枚目から書き始め、原則として、緒書 (はしがき)、材料および方法 (実験方法、調査方法)、

結果、考察、摘要（要約）、引用文献の順序に従い、見出しは2行どりで中央にゴシックで記載する。材料および方法の項のうち、試料、分析法などの小見出しおよび結果の項の中の小見出しは左端に寄せてゴシックとする。

謝 辞

特に長い謝辞が必要な場合は、別項目としても良いが、その場合は引用文献の前に入れる。

生物名・人名・単位など

動物・植物の和名はカタカナ書きとし、学名はイタリックを指定する。同じ学名が繰り返して出る場合は、2度目以降は、混同の可能性のない限り属名を略記する。命名者を入れる場合はローマンで入れる（頭文字をキャピタル、後をスモールキャピタル）。

人名の姓は、英語で書く場合はキャピタルとする。

文字の指定

文章中、文字の指定がある時は、アンダーラインをして、ゴシックをゴシ（g）、イタリックはイタ、スモールキャピタルはS.C.などと指定する。

数式のうわつき、したつき記号、およびギリシャ文字は明瞭に指定する。

図、表の書き方

刷り上がりの図、表の大きさは原則として、横幅が17.0cm または8cmとなるので、原図の横幅はそれぞれの2倍程度とする。図中の文字の刷り上がりの大きさも十分配慮して作図する。

図表原稿は本文と別葉にし、挿入箇所を本文原稿中の右欄外に朱書きすること。

図、表の説明

表の説明は、表そのものの上部に書き、図の説明は別葉とする。番号はゴシックで「表1」、「Table 1」、「図1」、「Fig.1」とする。和文報文中に英文解説をつける場合は、図表の説明を英文説明とする。英文解説をつけない場合は、図表の説明を和文説明とする。

引用文献

本文中の文献の引用は、次の例に従い、肩カッコで番号を付ける。また、3名以上のものについては「…他」または「… *et. al*」とする。

（例）

山田・森¹⁾は… YAMADA・MORI¹⁾…

…と考えられる（山田,^{1),2)}。

…（YAMADA,^{1),2)}。

引用した文献の配列は、引用順とし、順次番号を付け、同一著者の同一年の発表のものについては年号の後にアルファベットを付けて区別する。続いて引用する同一著者名は「—」のように、同じ雑誌が並ぶ時も、同誌(*ibid.*)などと略してはならない。

ただし、同一機関発行の同一文献を累年にわたって引用した場合は、以下のように略しても良い。

（例）

神奈川県水産試験場（1973-77）：昭和47-51年度漁況海況予報事業結果報告書。

各文献は次の形式にのっとり、下記の例にならって記載する。

雑誌の場合－著者名（年号）：論文表題、掲載雑誌名、巻（号）、ページ。

単行本の場合－著者名（年号）：表題、発行所、発行地（良く知られている発行所については省いても良い）。

ページ数。

(例)

- 1) ODUM, E.P. (1971): Fundamentals of ecology. 3rd ed. W.B. Saunders. Philadelphia, 14+574pp.
- 2) 山田一郎・田中明・鈴木正雄 (1975) : 東京湾の水質について, 水産海洋研究, 20, 25-32.
- 3) YAMADA I., A. TANAKA and M. SUZUKI (1975): On the water quality of Tokyo Bay, Bull. Japan. Soc. Fish. Oceanogr., 20, 25-32.

私信、未発表などは引用文献の項には記載しない。

校 正

報文の校正は原則として、すべて著者が行う。

校正は印刷のミスについて行うものとし、本文や図・表を変更しないこと。

規定の適用

この規定は神奈川県水産総合研究所研究報告第7号から適用する。

この規定の改訂は、編集委員会の承認を得て行う。